



平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年2月9日

上場会社名 愛眼株式会社
 コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 下條 三千夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 佐々 昌俊

TEL 06-6772-3383

四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	12,475	2.4	338		395	349.4	329	
29年3月期第3四半期	12,187	4.0	29	87.3	87	71.4	221	

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 357百万円 (%) 29年3月期第3四半期 234百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	16.99	
29年3月期第3四半期	11.44	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	17,083	14,349	84.0
29年3月期	16,773	13,991	83.4

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 14,349百万円 29年3月期 13,991百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		0.00	0.00
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,659	4.4	94		177		68		3.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	21,076,154 株	29年3月期	21,076,154 株
期末自己株式数	30年3月期3Q	1,667,665 株	29年3月期	1,667,577 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	19,408,554 株	29年3月期3Q	19,408,655 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国の政策動向、朝鮮半島情勢の緊迫化など先行きが不透明な状況が続くなか、企業収益や雇用・所得環境が改善し、景気は引き続き緩やかな回復基調で推移しました。個人消費につきましても、緩やかに回復してきており、消費者マインドには変化の兆しが見られるものの、賃金の伸び悩みや社会保険料の負担増などに加え、消費者物価が前年比プラスに転じたことが可処分所得の重石となり、依然として消費者の節約志向が続いております。

このような状況のもと当社グループは、お客様からの支持・信頼の獲得に焦点を当てた諸施策による事業収益の拡大と、経費コントロールなどによる経営効率の向上を進めることで、成長軌道のスタート点である黒字化に取り組んでまいりました。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、主に眼鏡小売事業の既存店売上が順調に推移したことにより、売上高は12,475百万円（前年同四半期比2.4%増）と増収となり、売上総利益率は0.7ポイント改善しました。一方、広告宣伝費の効率的な運用など経費コントロールの徹底に努めたことにより、販売費及び一般管理費は8,329百万円（前年同四半期比0.4%減）となりました。この結果、営業利益は338百万円（前年同四半期は営業利益29百万円）、経常利益は395百万円（前年同四半期比349.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は329百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失221百万円）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

なお、前連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

[眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、お客様の嗜好、ライフスタイルに合った最適な商品の提供を目指す「アイスタイリング・サービス」を主軸にした愛眼ブランドの強化に取り組んでおり、品揃えもサービスもよく、お客様に高い専門性と満足感を実感していただける店舗運営を目指しております。

商品につきましては、「目の健康」をテーマとした快適で機能的なレンズやフレームなどの高付加価値商品を増強し、また、価格志向、品質・性能・デザイン性重視など幅広い年齢層のお客様の多様化するニーズに即した商品の開発に注力することで、品質・価格の両面で競争力のある品揃えの充実に尽力してまいりました。

売上高につきましては、既存店の客数は前年同四半期比で若干増加し、商品の品揃えの拡充により販売単価が改善した結果、増収となりました。品別では、サングラスは販売促進の強化を図りましたが、夏場の天候不順の影響もあり、前年同四半期比では僅かながら減少しました。一方、補聴器はレンタルサービスとアフターケアが好評を得ており、順調に推移しております。

店舗につきましては、3店舗を出店、2店舗を閉店したほか、計画的な既存店の活性化を進め、12店舗で改装を実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は11,897百万円（前年同四半期比2.9%増）、セグメント利益は420百万円（前年同四半期比265.8%増）となりました。

[眼鏡卸売事業]

眼鏡卸売事業につきましては、得意先小売店に対する販売支援とともに、新規得意先の開拓に取り組んでおりますが、売上高は366百万円（前年同四半期比7.6%減）となり、セグメント損失は1百万円（前年同四半期はセグメント利益3百万円）となりました。

[写真館事業]

写真館（名称：愛写館）3店舗を営む写真館事業につきましては、第1四半期に横浜本店の改装を実施するとともに、外販活動を強化するなどの売上向上策に取り組んでおりますが、競争の激化により厳しい状況が続いております。

この結果、写真館事業における売上高は91百万円（前年同四半期比3.8%減）、セグメント損失は45百万円（前年同四半期はセグメント損失27百万円）となりました。

[海外眼鏡販売事業]

海外眼鏡販売事業につきましては、経営環境が引き続き厳しい状況にあるなか、商品ラインナップの拡充等に取り組み、採算の改善に努めておりますが、店舗数の減少に伴い売上高は120百万円（前年同四半期比13.8%減）、セグメント損失は8百万円（前年同四半期はセグメント損失6百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は17,083百万円、負債合計は2,734百万円、純資産合計は14,349百万円となりました。前連結会計年度末に比べ負債合計が47百万円減少し、純資産合計が357百万円増加した結果、自己資本比率は84.0%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年5月12日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っていません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,901	4,872
受取手形及び売掛金	753	944
商品及び製品	2,251	2,383
原材料及び貯蔵品	29	33
その他	231	249
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	8,163	8,480
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,026	1,065
土地	1,887	1,887
リース資産（純額）	34	21
その他（純額）	79	144
有形固定資産合計	3,028	3,118
無形固定資産		
リース資産	54	42
その他	14	11
無形固定資産合計	69	54
投資その他の資産		
投資有価証券	1,393	1,395
敷金及び保証金	3,468	3,385
その他	649	648
投資その他の資産合計	5,511	5,429
固定資産合計	8,609	8,602
資産合計	16,773	17,083

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	547	703
1年内返済予定の長期借入金	225	—
未払法人税等	185	135
賞与引当金	—	28
その他	1,020	1,149
流動負債合計	1,979	2,016
固定負債		
繰延税金負債	49	62
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	338	332
リース債務	240	154
その他	167	161
固定負債合計	802	717
負債合計	2,781	2,734
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	4,926	5,256
自己株式	△1,050	△1,050
株主資本合計	16,316	16,646
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	116	144
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	29	30
その他の包括利益累計額合計	△2,325	△2,296
純資産合計	13,991	14,349
負債純資産合計	16,773	17,083

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	12,187	12,475
売上原価	3,797	3,807
売上総利益	8,390	8,667
販売費及び一般管理費	8,361	8,329
営業利益	29	338
営業外収益		
受取利息	13	8
受取配当金	12	12
受取家賃	51	51
その他	37	31
営業外収益合計	114	102
営業外費用		
支払利息	2	1
固定資産除却損	7	6
賃貸費用	33	31
その他	13	7
営業外費用合計	56	46
経常利益	87	395
特別利益		
投資有価証券売却益	—	38
特別利益合計	—	38
特別損失		
減損損失	232	5
投資有価証券評価損	1	—
特別損失合計	234	5
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△146	428
法人税、住民税及び事業税	72	97
法人税等調整額	2	1
法人税等合計	75	98
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△221	329
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△221	329

（四半期連結包括利益計算書）
（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△221	329
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	27
為替換算調整勘定	△19	0
その他の包括利益合計	△12	28
四半期包括利益	△234	357
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△234	357
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	11,556	396	94	140	12,187	—	12,187
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	60	—	—	60	△60	—
計	11,556	456	94	140	12,248	△60	12,187
セグメント利益又は損失 (△)	114	3	△27	△6	84	△55	29

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去9百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△65百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外眼鏡販売	全社・消去	合計
減損損失	121	—	—	—	110	232

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	11,897	366	91	120	12,475	—	12,475
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	66	—	—	66	△66	—
計	11,897	433	91	120	12,542	△66	12,475
セグメント利益又は損失 (△)	420	△1	△45	△8	365	△27	338

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去10百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△37百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、「その他」に含まれていた「眼鏡卸売事業」及び「海外眼鏡販売事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

（単位：百万円）

	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外眼鏡販売	全社・消去	合計
減損損失	5	—	—	—	—	5

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。